

人材育成と地域資源活用による長崎県の持続可能な地域振興・活性化に関する研究

研究分野: 総合人文社会学、観光学

キーワード: 観光とSDGs、ニューツーリズム、地域振興・活性化、産官学金連携による地方創生、課題解決型人材育成

貢献できるSDGsの区分:



地域創造学部 公共政策学科 講師 バロリ ブレンディ

教員情報URL <https://sun.ac.jp/pages/31134/>

研究概要

長崎県が持っている豊富な資源の見直しによる“観光”と“地域”の活性化を両輪として進めることが必要である。このことから、長崎県の観光の活性化における潜在的要因や必要な取り組みを明らかにするとともに、「モノ」から「コトとヒト」のつながりを重視した“見る観光”から“体験観光・つくる観光・感動する観光・ストーリー性ある観光”に向けた、新たな魅力と可能性を創出する研究として、ニューツーリズムの可能性を考察・検討するものである。先進事例を調査・分析し、長崎県の価値や資源を発掘、再認識すると同時に地域の方々と交流拡大・産官学金連携強化・地域の人や魅力を作り上げる戦略を組み立てる。“体験型観光による地域づくり”・“観光と人づくり”についての調査、現状把握、課題整理を行い、国際観光に加えて「コトとヒト」に着目している。

また、観光分野の研究を進めていく上で社会連携や地域連携、そして、異文化や国際交流と国際社会は基本的必須であり、自治体の政策やNPOの役割に着目し、持続可能なまちづくり、観光産業と外国人観光客の誘致について学内外と国内外の研究者と連携しながら研究を進めていく予定である。

産学連携の可能性(アピールポイント)

- ①長崎県の国際観光の現状と課題: 観光資源を活かした外国人観光拡大の可能性に関する研究調査
- ②近代日本におけるインバウンド政策の展開に関する研究調査
- ③持続可能な観光の発展のため人材育成に関する研究(SDGsと観光)

外部との連携実績等

<2016年04月～2018年03月>: 大学と連携したマーケティング調査と村内周辺市町村在住外国人によるマーケティング調査、弥彦村商工会『需要動向調査業務』(調査依頼)

<2018年06月～2021年03月>: 新潟県弥彦村インバウンド誘客指針策定委員会外部委員

<2019年07月～2022年03月>: 公益財団法人新潟県スポーツ協会審査員および連携促進会議メンバー

<2022年4月1日～現在>: 平戸市共同研究委託: 構成資産の集落(春日集落)の持続可能な維持・発展に係る課題など検証事業

(2023年4月1日～現在): 「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」、長崎県立松浦高校コンソーシアムメンバー